

4. 問合せ・応募先

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5-4 桜井ビル3F
 一般社団法人経営倫理実践研究センター気付け
 日本経営倫理学会 第19回研究発表大会実行委員会
 E-mail info@jabes1993.org

以上

第123回理事会議事録

日 時：平成22年12月18日(土) 12:00～13:45

場 所：経営倫理実践研究センター会議室

出席者：29名中13名出席

議 題：

1. 新入退会者承認の件

〔新入会員〕 正会員：3名、学生会員：1名

〔退会者〕 正会員：12名、学生会員：1名

会員数は441名となった。

2. 第18回研究発表大会(2010年10月16日上智大学で開催) 総括の件

研究発表大会には97名参加した(懇親会には50名参加)。収入496,500円、支出は733,146円、差引収支は286,646円の赤字となった。赤字の原因は、参加者が予想を下回ったことおよび会場費が予算より上回ったことによるものであった。

3. 国際交流活動推進の件—台湾との学術交流(葉山理事ほかによる報告)

「日本・台湾 経営倫理シンポジウム」が2010年11月1日(月)台北の中国文化大学で開催され、中国文化大学商学院の林院長他の盛大な歓迎を受けた。経営倫理、CSRを中心に日台双方より7名の発表が行なわれた。

4. 第3回経営倫理シンポジウム(2011年1月25日)の件

「第3回経営倫理シンポジウム」は「企業のミッションと経営倫理」を統一テーマに中央大学駿河台記念館で開催。参加者数目標130名に対し現時点では43名の参加申込みである。JABES・BERCの会員にPRをして参加者を増やしたいので協力をお願いします。

5. 来年度研究発表大会の件(実行委員会よりの経過報告)

2011年6月18日(土)～19日(日)麗澤大学で開催される2011年度研究発表大会について、実行委員会で検討の結果、18日午後に基調講演・パネルディスカッションおよび総会・新理事による理事会、終了後に懇親会、19日は終日研究発表を行なうようにプログラムを修正したと詳細が報告された。意見

交換の上、実行委員会の修正案で実施することになった。

6. 業務監査報告(大関監事、服部監事)

「平成21年度研究部会収支状況」の監査を行なった。全体としての収支バランスは健全に保たれているが収入(補助金)に対する次期繰越金の倍率の特に高い部会が見受けられた。また、会計処理上の問題として金銭出納管理を行っていない部会があるので金銭出納管理を実施すべきこと、および、領収書の受領・管理を徹底すべきことが指摘された。さらに支出の使用目的の枠組みを設けるべきことが示唆された。

7. その他

(1) CiNii の件

広報担当より国立情報研究所の学術論文アーカイブ CiNii に最新の当学会誌17号を年内に全文掲載すること、ならびに、バックナンバーは2月以降随時公開することが報告された。JABESのホームページから CiNii に直接リンクできる。

(2) 学会会費口座振替の件

総務担当より学会年会費の口座振替の現状についての報告が行なわれた。本年度会費収入目標は420万円であるので1月以降さらなる振替推進に努力する。なお、銀行振替でも領収書が必要な会員に対しては一度登録すれば都度 JABES の領収書を発行するようにする。

(3) 会員名簿作成の件

会員名簿のサイズを利便性から B5 版にすることになった。

(4) 会則変更の件

来年度総会で休会制度関連の条文追加(既に理事会で討議済み)、監事の数の「3名」から「2名以上3名以内」への変更、常務理事の常任理事への改称、について付議し承認を得ることになった。

(5) 次回理事会開催の件

3月12日(土) 12:00～13:30 開催予定。

編集後記

学会の国際交流が進んでいる印象を受けた。昨年8月カナダで開催されたアメリカ経営倫理学会(SBE)年次大会への参加、11月台湾で中国文化大学との「日本・台湾 経営倫理シンポジウム」共同主催。経営倫理やCSRは国際的な研究テーマであることを改めて感じた。

日本では、相撲界が八百長問題で大きく揺れている。不祥事が続いているため、再び社会から信頼と支持を得ることは容易ではない。組織としてのミッションを再確認し、構成員1人ひとりに高い倫理観を持たせることが、今強く求められているように思う。

(編集担当/葉山)

日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

新年のご挨拶～アメリカ経営倫理学会に参加して～

会長 高橋浩夫(白鷗大学大学院教授・経営学博士)

アメリカ経営倫理学会(Society for Business Ethics: SBE)の2010年次大会がカナダのモントリオールで8月7日～10日の日程で行なわれた。8月はモントリオールでは夏真っ盛りであり様々なイベントが開催され一年中で最も賑わう時期である。

会議の場所は街の中心地とも言えるマギル大学に近いシェルブルック(Sherbrooke)通りに面した Sofitel Hotel で行われた。わたくしは日本経営倫理学会会長の立場から開催前日の6日、海外からの参加者を招待して行われる International Reception での挨拶と8日の研究発表のため出席した。SBEへの参加は初めてであり、これまで出席した他の国際会議とは違ういくつかの印象を受けた。

大会参加費は100USドルである。これは私が所属して何回か出席したことのある国際経営学会(AIB)が通常300～350USドルと比べれば安い。このような参加費の安さは大会運営が無駄と思われるものを極力省き若い研究者でも参加しやすい仕組みがつけられてきているように思う。PhDの取得もしくは取得した後の若い研究者の発表の場である Emerging Scholar のセッションもいくつか設けられているのも印象深かった。SBE自体は1979年の創設であるから2010年は31年目になり比較的新しい学会である。因みに日本経営倫理学会の設立はその14年後の1993年である。SBEの会員は圧倒的にアメリカが多く、今回のモントリオール大会ではアメリカの次に開催国のカナダ、次に日本からの16人である。2009年～2010年のSBE会長は女性の Professor Joanne Ciulla, University of Richmondであり、次の会長2010～2011年は Professor Ian Maitland, University of Minnesotaである。

次に報告者の顔ぶれである3日間の発表のうち全体の半数弱は女性研究者であったように思う。それも所属する大学はクリスチャン系(St. Joseph's College, The Catholic University of America, Loyola University, Catholic University of Portugal, St. Mary's University, Universite Catholique de Louvain, University of St. Thomasなど)の大学が多いことである。アメリカの経営倫理は倫理学、哲学、宗教学の視点から考察しようとする人が多く、今回の発表者の中にもそのようなことが感じられた。また、アメリカ以外からの発表者は開催地であるカナダの研究者の他に、ヨーロッパの大学(ソルボンヌ大学、オックスフォード大学、レディング大学、スペイン、ドイツ、スイスの大学等)からの参加者も多い。残念ながらアジアからの発表として参加者は日本だけである。今回多く設けられたセッションは経営倫理教育I、II、IIIである。この問題は三つとも先進国の経済社会に共通する課題であると感じた。経営倫理教育は特に2008年起こったリーマンショックを契機とするサブプライムローンに傾いた金融崇拜の反省からである。つまり、2001年のエンロン崩壊後も続く実物経済とはかけ離れたアメリカ型経営者の倫理的行動規範である。これを大学や大学院等のレベルで経営倫理教育の中にどう取り込んでゆくのかが課題である。

今年の研究発表大会は6月18日(土)、19日(日)の2日間、経営倫理教育を最も重視してきた麗澤大学で行われる。統一テーマは「経営倫理教育」である。多数の参加者による活発な議論を期待したい。

第3回「経営倫理シンポジウム」(主催：日本経営倫理学会、協賛：(社)経営倫理実践研究センター、(特)日本経営倫理士協会)

小坂勝昭(当学会企業行動研究部会長 文教大学教授)

第3回「経営倫理シンポジウム」が、2011年1月25日、中央大学駿河台記念館において開催された。

実行委員長で桜美林大学の馬越恵美子教授(当学会理事)の総合司会で始められた。今回のシンポジウムのメインテーマは、「企業のミッションと経営倫理」と題する非常にタイムリーな内容のものであった。

まず、小林規威(のりたけ)氏の基調講演で始まった。慶應義塾大学のビジネス・スクールで長年にわたり教授、校長職に従事された氏の経歴から伺えるように、「国際ビジネス」の専門家である。今回は、J.H. ダニング論文に依拠しながら議論を始められた。彼が依拠したダニング教授は、ラトガース大学、リーディング大



「企業のミッション」報告後のパネルディスカッション

学の国際ビジネス担当「名誉教授」であり、彼の編著 *Making Globalization Good—The Moral Challenges of Global Capitalism* (2003) に収められた氏の論文『グローバル資本主義の道徳的責務』は、ビジネス倫理の研究者にとつ

学会連絡先：東京事務局

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5-4 桜井ビル3階

Phone 03-3221-1477

F a x 03-3221-1478

E-mail info@jabes1993.org

学会 HP URL http://www.jabes1993.org

○広 報 古山常務理事

○総 務 手島副会長・松本常務理事

発行／日本経営倫理学会

☆メールアドレスを登録頂いている会員各位へは、会報を、郵送ではなくメール(PDF)にて送らせて頂いております。

でも非常に興味深い内容のもので、小林名誉教授は、日本経営倫理学会依頼の講演であることを充分意識され、敢えてダニングの問題提起を掲げて議論を展開されたと推察できた。「国際ビジネス論」で著名なダニング教授の主張は、世界的な規模で進みつつある「グローバル資本主義」の拡大が不可避であるが、その動きは「道徳的チャレンジ」を伴う必然性を語るもので、「道徳的エートス」が国際化に対応する企業に課された「道徳的責務」(Moral imperatives)であるというのがダニングの主張の核にある。「ビジネス倫理」という言葉を意識しながら国際ビジネスの世界からそれに代わる概念として「道徳的責務」という考え方を提示されたと推察すべきである。

「グローバル資本主義」は、効率的に富を産み出すシステムとして世界に拡大したが、残念ながら国内、および国外で「格差」を招き、公正、平等という観点からは満足に程遠いものであり、結局は、「道徳資本主義」(Moral Capitalism)を実現する道しか残されていないのである。それは、「マーケット活動」、「市民社会化」、「政府」、「各種団体」(NGO)の働きなどを前提とする。小林規威慶應義塾大学名誉教授は、当日の基調講演のために資料を用意された。それは「CSR企業ランキング200社の序列」と、氏が独自にはじきだした「トップ50社の経営パフォーマンス評価」である。この二つのランキングを見れば明らかにズレがあるという主張であった。こうしたズレがなぜ出てくるのか。業績順位と、企業経営の本質的な在り方にはどのような因果関係があるのか、こうした厳しい問いかけを我々に投げかけるものだった。

基調講演に続き、「企業のミッションⅠ」では、東京に本社をおくジョンソン＆ジョンソンの代表取締役社長のデイビッド W.パウエル氏が企業理念『わが信条』(Our Credo)の果たしてきた役割について話され、次いで「企業のミッションⅡ」では、YKKのファスナー本部長で取締役副社長の猿丸雅之氏が「善の循環」を骨子とする「更なるCorporate Valueを求めて」という独自の経営理念について話された。

休憩をはさんだ後、「パネルディスカッション」に移り、高橋浩夫(日本経営倫理学会会長)がコーディネーターを、報告者の小林、パウエル、猿丸の三氏がパネリストをつとめられた。高橋会長のリードでパネリスト達と会場の参加者との間で積極的な質疑応答が繰り返された。こうした本音の議論が交わされるほど関心をもつ参加者が多かったと言えるが、大変に有意義なシンポジウムとなった。パネリスト達の発言内容に従い、若干整理しておきたい。

世界企業のジョンソン＆ジョンソンの「わが信条」と、YKKの「善の循環」の間には驚くほど共通点がある。いま社会に必要なのは企業が果たすべき社会的役割にほかならず、100年以上の歴史を持つJ&Jは、滅菌済み縫合糸や、手術用品などの革新的な製品を世に出すことによって医療業界の信用を獲得し、今日においても地域社会を含めて世界からの信頼を得てきた。一般的にはベビーパウダーや、バンドエイドのお世話にならない人はいないほどその影響力は大きい。従って、J&Jの二代目社長が創った『わが信条』は、今日のあらゆる企業の経営方針となるほどの「お手本」となる要素を充分にもつものであることは間違いない。

また、他方のYKKもファスナー製品の生産においては世界を一步リードしてきた。北陸の富山県から世界へ羽ばたいた貴重な企業のひとつであるが、創業者の吉田忠雄が今日のYKKの礎を創った。YKKの企業精神「善の循環」が意味する経営理念は、J&Jの「わが信条」と多くの共通する側面を持っている。企業の維持・存続が「利益追求」のみによって成立するものではないことにいち早く気づき、企業の繁栄の道を模索したことであろう。常に「新しい価値の創造」をめざすことによって事業の発展を考える「善の循環」とは、お得意様、お取引先の繁栄と社会貢献に繋がることを大前提とすることでは「わが信条」の精神そのものである。こうした共通項に気付けば、企業の繁栄とは「他人の利益を凶らずして自らの繁栄はない」とする『YKK精神』そのものであり、「顧客あつての企業」という大前提に立つことが繁栄に繋がるのである。またYKKでは働く従業員に対して「善の循環」としての「経営理念」を浸透させてきた成果として今日の繁栄があることを忘れてはならない。

～日本経営倫理学会国際交流活動～

「日本・台湾 経営倫理シンポジウム」



参加者全員による記念撮影

開幕 9:00～10:00 挨拶 中国文化大学 商学院林彩梅院長、張鏡湖理事長、呉萬益学長
挨拶 日本経営倫理学会 高橋浩夫会長 ～日本経営倫理学会の活動について～

10:00～10:30 記念写真撮影

【第1部 10:30～11:40 司会：高橋浩夫会長】

葉山彩蘭(日本経営倫理学会理事 淑徳大学准教授)
日本経営倫理学会と台湾・中国文化大学商学院主催、中華民国多国籍企業研究学会協賛による「日本・台湾 経営倫理シンポジウム」が、2010年11月1日(月)台湾の中国文化大学で開催された。日本経営倫理学会から関係者18名が出席し、合計約150名参加の盛会となった。プログラムは次の通りである。

記

日 時：2010年11月1日(月) 9時～17時

会 場：中国文化大学曉峰記念館2階国際会議室

プログラム：

- ①「日本型雇用とワーク&ライフバランス」：谷俊子(日本経営倫理学会会員、東海大学助教)
中国語通訳：葉山彩蘭(淑徳大学准教授)
- ②「台湾と中国のCSR比較研究」：江岷欽(中国文化大学教授)
日本語通訳：李彦良(中国文化大学教授)
- 【第2部 11:40～12:20 司会：柯勝揮教授(中国文化大学)】
 - ③「CSRと障害者雇用問題」：狩俣正雄(日本経営倫理学会会員、大阪市立大学教授)
中国語通訳：劉宏成(台湾総合研究院日本代表)
- 12:20～13:30 昼食(lunch)
- 【第3部 13:30～14:40 司会：林彩梅院長】
 - ④「取締役会の特徴、投資戦略と経営業績との関連性」：何文栄(中国文化大学教授)
日本語通訳：李彦良(中国文化大学教授)
 - ⑤「野村徳七の経営理念と企業倫理 ―野村證券の創業精神の研究―」
野村千佳子(日本経営倫理学会会員、山梨学院大学准教授)
中国語通訳：葉山彩蘭(淑徳大学准教授)
- 【第4部 15:10～16:20 司会：馬越恵美子教授(日本経営倫理学会理事、桜美林大学)】
 - ⑥「観光農業と企業倫理」：蔡龍銘(中国文化大学教授)
日本語通訳：李彦良(中国文化大学教授)
 - ⑦「拡大経営の失敗と企業統治―英会話学校ノヴァのケース―」
井上 泉(日本経営倫理学会会員、東日本高速道路)
中国語通訳：鄭安君(相模女子大学講師)

16:20～17:00 閉幕 司会：林 彩梅院長、高橋浩夫会長
総括：古山英二(日本経営倫理学会常務理事、日本橋学館大学)
謝辞：施光訓(中華民国多国籍企業研究学会秘書長、中国文化大学)

18:00～20:00 交流懇親会 謝辞：田中宏司(日本経営倫理学会副会長、東京交通短期大学) 以上

僅か一日のシンポジウムであったが、日本と台湾の経営倫理やCSRのテーマついて幅広い意見交換をし、有意義な国際学術交流ができた。中国文化大学の張鏡湖理事長、呉萬益学長、林彩梅商学院長をはじめ、多くの教員と学生から熱烈な歓迎を受けたことに心から感謝している。

2011年度研究発表大会発表者公募のお知らせ

2011年度研究発表大会は6月18日(土)と19日(日)の二日間、麗澤大学(千葉・柏)において開催いたします。現在、下記要領にて発表者を公募しております。例年より公募の締め切りが早まりますので発表をご検討中の方はご注意ください。

記

1. 統一テーマ：「経営倫理教育の課題と展望」
*上記関連テーマでの発表希望者も自由論題としての発表になります。
2. 応募資格：本学会会員。ただし本学会が発表を依頼する場合は除く。
3. 応募および要旨・予稿提出締切日：2011年4月4日(月曜日)(4日消印有効)
 - 1) 発表要旨：
 - ① 連絡先、発表題名、800字程度の「発表要旨」を添えてお申込みください。
 - ② 問題意識、発表テーマを取り上げた理由、論点、結論と主張など簡潔に述べてください。
 - ③ 論文審査委員会による審査のため、4部提出。
 - 2) 予稿原稿：
*「予稿」はそのままコピーして『予稿集』として編集しますので、以下の要領に従ってください。
 - ① 論文審査委員会による審査のため、4部提出。
 - ② B5判用紙を縦にして横書き、片面のみ使用。
 - ③ 研究発表は論文発表と異なり、発表者が口頭で内容を聴講者に伝える趣旨に鑑み、文章は「ですます調」が望ましい。
 - ④ 字数・行数および文字フォントは、38字・38行および10.5ポイント。
 - ⑤ 原稿本文はワープロ書き5頁以内。図・表は本文とは別にし、2頁以内。
 - ⑥ 原稿の最初の行中央に論題を、2行目に所属(勤務先)、氏名(括弧でふりがなをつける)を書き、一行あけてから本文を開始。
 - ⑦ 左マージンを20ミリ以上、下マージンを25ミリ以上とる。